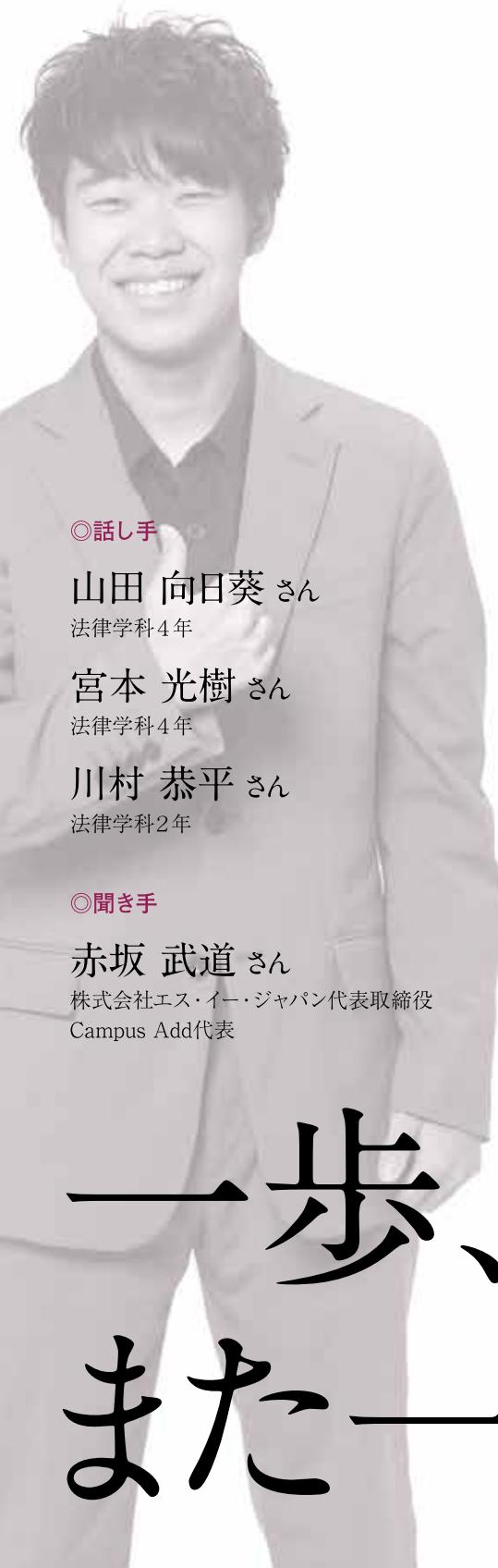




## オンライン座談会

# コロナ下での就活 変わったこと、変わらなかつたこと



### ◎話し手

山田 向日葵さん  
法律学科4年

宮本 光樹さん  
法律学科4年

川村 恭平さん  
法律学科2年

### ◎聞き手

赤坂 武道さん  
株式会社エス・イー・ジャパン代表取締役  
Campus Add代表



この2年にわたるコロナ禍で、学生生活は大きく変わりました。人に会う機会が減り、コミュニケーションの方法も変化しています。そんな中、大学生の就活は変わったのか、変わらなかつたのか。今回は、聞き手に、本学法学部出身で本学職員としても学生と長く接してきた後、現在は就活生向けスペース「Campus Add」代表を務める赤坂武道さんを迎えて、今年のコロナ下での就活を振り返ります。

法学部で学んだ先には、様々な就職先が開けています。国家公務員の内定をもらった宮本さん、民間企業から内定をもらった山田さん、そしてこれから就活に取り組む2年生の川村さんに話を聞きました。

### 就活への取り組み方

赤坂 まず山田さんに就活時の情報収集の仕方について質問します。コロナ下においては、どのように情報収集をしていったのか、孤独な期間も多かったと思いますが、周囲のサポートとかはどうでしたか。

山田 就職活動を始めた当初は、大学のキャリア支援センターのサイトにある就活体験談を見て、卒業生の就職先とか、体験談を読んで、自分が行きたい業界を考えていきました。北海道の業界地図、マイナビ、リクナビなどでも情報収集していました。また、直接お話を聞かないと、会社の雰囲気が分からぬと思ったので、自分が志望する企業は対面でのインターンシップや説明会に積極的に参加をしました。キャリア支援センターで配られているワークシートも活用しました。周囲のサポートに関しては、一番大きかったのが親のサポートかなと思います。オンライン面接が多くありましたが、やっぱり静かにしてもらわないといけない場面が多かつたので。

赤坂 僕はたくさんの学生を見ているけど、口コミだけに頼らずに、直接企業に足を運び、自分の足で行動したというのは、本気度が伺えますね。それでは次は宮本さん。公務員就職のための情報収集や周囲からのサポートについて教えてください。

# 一步、 また一步

宮本 3年生の頃から漠然と公務員になりたいと思っていました。情報収集に関してはミナトコムを活用しました。知り合いにも公務員を目指す方が多くいたので、そういう方から話を聞いたり、あとはキャリア支援センターのスタッフの方に何度も相談に乗っていただいたりもして、多くの場所から情報を収集しました。サポート面に関しては、やっぱり一番大きかったのはキャリア支援センターです。何年も公務員試験の受験生を面倒見てきた実績がありますので、スタッフの方の意見が客観的で非常にためになりました。

## 就活に王道あり

赤坂 お二人の話を聞いていて、一度も出てこなかったキーワードがあるんだけど、川村さん気づきましたか？

川村 SNS？

赤坂 そう。SNSを頻繁に活用したっていう話は出てこなかった。僕が見てきた上手くいく就活生は、王道をきちんと歩むんですよ。体験談を聞くとか、キャリアセンターを活用するとか、説明会やインターンシップに自分で足を運ぶとか。失敗する就活生って、どっかに近道があるんじゃないかなって勘違いするんです。でも二人は、SNSの「上手くいく！」って情報に頼ってない。

川村 有益な情報もインターネット上には存在すると思うんですけど、実際に足を運んでその場の空気を掴むのが、一番の近道なのかなってお二人の話を聞いて思いました。

赤坂 山田さんはコロナ下の就活で色々な会社を見てきて、何か感じましたか？

山田 そうですね、オンラインの就活やインターネットでも工夫して下さる会社はちゃんとコミュニケーションが取れている実感があるんですが、そうでないところもあって、企業によって差が出てきているのではと思います。

赤坂 宮本さんは、公務員なりたいという強い思いがあっても、試験まで時間があつたり一緒に勉強する仲間が周りにいなかつたりすると、



川村 恭平さん



山田 向日葵さん



宮本 光樹さん

モチベーションの維持が大変だったんじゃないですか？

宮本 私は基本的に学内講座のみで、予備校等は一切使いませんでした。勉強方法を調べたり、科目の選択なんかも、一から全部自分でやらないといけませんでした。コロナ下でパソコンの前に向かって一人で勉強する生活を半年くらい続けてきたので、孤独感は凄かったです。大学1年生から家庭教師のアルバイトを四年間し続けていて、自分でもコンスタントに勉強する時間を常にとってきたのと、生徒の勉強の時間を管理するなかで、自分も勉強の感覚が身についてたかなと思います。

赤坂 家庭教師のアルバイトの経験が公務員試験の勉強に生きてくるとはちょっと盲点でした。

## 自分から動く

川村 僕は2年生になる前の春休みに、企業のではなく、ソーシャルインターンシップに参加して、地方の首長さんや議員さんと行動を共にすることで、その地域の問題などに接しました。コロナで1年間学校にも来られないし友達もできない、アルバイトもできないで、正直、孤独感に押しつぶされそうになって、精神的にもギリギリの状態になっていたのですが、たまたま情報を見つけて、ディスカッション能力やコミュニケーションスキルを磨こうと思って参加しました。

赤坂 今、大学だけで全てを教えてもらおうとする学生が多いです。世の中の仕組みとか知識とか、全部大学任せ。そういうのがすごく嫌なんです。川村さんのように自分で行動して、大学の外で学ぼうとすることも、コロナ下で求められると思っています。その積極性が社会に出てから生きてくると思うんです。

山田 就職活動を始めるのは3年生の夏とか秋とかが多いと思うのですが、そのはるか前からインターンシップに参加してるのはすごいです。企業の面接では、インターンシップに関連して、普段から行動力があるのか、それで得られたもの、働く上でどういう風にその経験を活

かせるか、などを聞かれました。

赤坂 最近は公務員も筆記試験だけじゃなくて人物重視で、これまでの経験とか学業とかバイトとかサークルとか、面接ではそういう視点からの質問もありますが、宮本さんはどうでしたか？

宮本 公務員でも面接では、学生時代に何をやってきたのかはすぐ聞かれます。うちに入った時にどういう風に活躍できるかってのは、いろんなところで聞かれましたね。

赤坂 学業とかサークルとかバイトとか、経験値がたくさんあった方が、エントリーシートにも書けますね。

## 大学を使い倒そう

赤坂 卒業まで、どんな過ごし方をしますか。

宮本 単位は全てとっているので、所属している菅原ゼミでの勉強を、残り半年頑張ろうかなって思っています。1年生の基礎ゼミからずっと菅原ゼミに所属していて、ゼミで学んだことが公務員試験ですごく役立ちました。とにかく本を読むゼミなので、読解力がつきました。今年のテーマは個人的に興味あることなので、残り半年も積極的に参加できればと思います。

山田 私は就職先は民間ですが、教職免許を取ることに決めたので、教育実習を頑張っているところです。それが終わったら、就職先の仕事を勉強をしたいなと思っています。

川村 高校生の頃から続けているアルバイトや、インターンシップを提供するスタッフ仕事をしていて、継続していくと思ってます。あと、せっかく北海学園に入ったので、授業もそうですが、ゼミでも見聞を広めたい。それが学費を払ってもらっている親への恩返しにもなるかなと。

赤坂 僕はこのコロナ禍が、大学を改めて生まれ変わらせる良い機会だと思ってます。4年間大学を使い倒すっていうか、学費のもとをとるっていうか、そういう風に大学も生まれ変わるといいなって思ってて、法学部生にはそれを期待したいな。



赤坂 武道さん

# スポーツと法学部

## 法学部ゼミ対抗 ソフトボール大会

加藤 信行（法学部教授）

勉学に励むことこそ学生の本分であるが、友人との付き合い、いろいろな人の出会いなども、豊かな大学生活を送るうえで欠かせない。そういう営みの一つとして、法学部ゼミ対抗ソフ

トボール大会が開催されてきた。毎春、月寒公園野球場に多くのゼミが集い、交流し、競い合ひ、称えあってきた。

この大会は、私が本学に赴任した1987年には、すでに恒例の行事となっていた。この行事を立ち上げたのは、法学部の専門演習に所属する学生たちが結成した「法学部ゼミナール連合」（法ゼミ連）である。この学生団体が、参加する各ゼミの代表者（法ゼミ連委員）の協力を得ながら、ソフトボール大会を運営してきた。正規の授業の一部ではなく、学生の自主的な課外活動といえるものであるが、多くの法学部教員が好感を持ってこの活動に理解を示してきた。応援に駆け付ける教員は少なくなく、プレーに参加する教員も決して稀ではない。今や昔の話となるが、かつては大会の最後に、にわかに編成された教員チームが、トーナメントを勝ち抜いた学生優勝チームとの間で親睦試合を行ったものである。

わが加藤信行ゼミは、ソフトボール大会を、ゼミ生相互の懇親と連帯感を深めるとともにゼミの垣根を越えた交流を進めるための絶好の機会と位置付け、毎年、積極的に参加してきた。

参加するかどうかは、個々のゼミ生の自由であるが、多くの加藤ゼミ生が、自ら進んで大会の準備と遂行に協力してきた。大会が終わると、残念会または祝勝会と称して懇親会を開くのが常である。懇親会には、加藤ゼミ生ではない学生が顔を出すこともあった。こうして加藤ゼミは、私が若かりし頃に達成した7連覇を含め、少なくとも15回は優勝している。そんな事情からか、ある年に法ゼミ連が自然消滅したのちは、事实上、加藤ゼミ生が音頭を取って大会を実施するようになった。

しかし、今から2年前の2019年、ソフトボール大会はどうとう実施されなかった。さらに、コロナ禍の去年と今年は、当然のごとく中止を余儀なくされた。この3年の空白期間を経て、来年以降、果たしてどうなるのであろうか。このまま消滅するのか、それとも復活し蘇るのか。それは、コロナ禍の収束状況などにもよるであろうが、なによりも、法学部ゼミ生諸君の意思と実行力にかかる。私の個人的な淡い希望を明かせば、自分の定年までに、あの雰囲気を、学生と一緒に再び味わってみたいと願っている。



ソフトボール大会（1994年）で優勝したときの加藤ゼミ

## リーグの自治 コロナ禍での部活動

鹿谷 雄一（法学部准教授）

本学硬式野球部は、令和3年度札幌学生野球春季リーグ戦で優勝し、第70回全日本大学野球選手権記念大会（6月7日開幕、会場：明治神宮野球場・東京ドーム）に30年ぶり20回目の出場を果たしました。同大会へは、法学部から6名の部員が帯同し、福井工業大学（北陸大学野球連盟）との初戦に臨みました。

出場校中最多の43回目を誇る福井工大に対して、初回に先制したものの、42年ぶりとなる初戦突破は叶いませんでした。準優勝した福井工大とは、点差ほどの実力差ではなく、道内の高校出身者のみでも、十分に戦えることを実感することができました。全国の舞台を楽しめた一方で、悔しい思いをし、新たな課題もみつかりました。目標も明確となり、次につながる貴重な経験を得ることができました。

第4波となる新型コロナの感染が拡大し、北海道にも東京都にも緊急事態宣言が出ているなかで開催された同大会は、検温はもちろんのこと、試合前後では、他大学との接触がないよう動線がとられ、東京ドームのスタッフがベンチ内を消毒するなどの対策がとされました。試合中も、プレーしている選手以外はマスクの着用を徹底しました。一方で、現地での練習場の確保には苦労するものがありました。

緊急事態宣言等の対象地域にある連盟（リーグ）では、それぞれが定めた方法で代表校を決定しています。札幌学生野球連盟は、緊急事態宣言の発出が確定となった場合に第1節の終了時点で中止することとし、本来の半分となる1試合総当たりで打ち切りました。北陸大学

野球連盟も、出場辞退の大学が出たことでリーグ戦を中止して、上位3校による代表決定戦に切り替えていました。日程も変更し、大会1週間前まで代表の座を争っていました。対外試合が約1ヶ月できなかった本学にとって試合勘では大きな差があったかもしれません。

デルタ変異株の流行で、各連盟の秋季リーグ戦開催にはさらに厳しい対応や運営が求められました。開幕日の延期や試合数減、無観客での開催などがみられます。各大学の部活動に対する方針もさまざまです。野球に限って言えば、球場での試合よりは練習前後やミーティングのほうに高い感染リスクが存在し、細心の注意を払う必要があります。攻撃も守備も次のプレーを意識しています。とくに守備の動きの一つひとつはつねに危機を意識し、影響が最小となる行動をとっています。多くのスポーツも同様で、危機管理ができれば結果がついてきます。これからは置かれた環境に適応していくことも求められるでしょう。日常が戻ることを祈るばかりですが、この状況を後ろ向きに考えず、部活動で培った経験や適応力を活かしてもらいたいと思います。

\*加藤信行部長に代わり副部長として帯同しました。



東京ドームでの試合前の記念撮影

# 在外研修報告

法学部 鈴木 光

令和元年9月から令和2年3月まで、スペイン王国バレンシア大学法学部 (Facultat de Dret, Universitat de València) に滞在し、行政法研究に従事しました。この在外研修に際しては、学校法人北海学園、および北海学園大学の学生・教職員の皆様より多大なるご支援・ご協力を賜りました。ここに謹んで御礼を申し上げます。

バレンシア大学は、1499年創立の公立総合大学です。5つのキャンパスに医学・薬学・工学・歴史学・心理学・経済学・法学など20以上の学部が置かれ、約5万5千人の学生が学んでおります。図書館が17もあり、その多くは24時間開館しております。課外活動も盛んで、バスケットボール、テニス、サッカーなどは勿論、ビーチバレー、フラメンコ、テコンドー、ヨガ、障害者スポーツ、柔道、剣道、合気道、空手、少林寺拳法部もあります。欧州には世界最大の大学間交換留学制度ERASMUSがあり、6百万人以上の学生が、欧州37か国の5千以上の大学へ、3～12か月間、学費免除で留学しておりますが、近年、希望する留学先の第1位にバレンシアポリテクニカ大学（バレンシア大学の真向かいに位置）、第2位にバレンシア大学が選ばれしたことから、キャンパスはますます多くの欧州留学生で賑わっております。

バレンシア大学の法学部は、6千人の学生を擁する大きな学部です。行政法専門コースがあり、行政法専任教員だけでも15名以上おりますので、行政法研究者にとっては頗ってもない研究環境です。幸い私は、同国を代表する著名な法学者であるガブリエル・ドメネク・パスクアル (Gabriel Doménech Pascual) 教授にご指導をいただき、同国の行政法を中心に深く学ぶことができました。

バレンシア大学法学部では、基本的な法学理論の修得のみならず、それを実社会で具体的に実践できることを学びの意義があるとの考え方から、毎週のように、現代的な法律問題をテーマとする国際学会・研究会・勉強会等が開催され、熱心な議論が繰り広げられております。

出席させていただいた研究会等のテーマの一部を紹介しますと、(1) アルゴリズムの法的性質。スペイン政権が用いているアルゴリズムの検証、人工知能とビッグデータの使用に関する

権利と透明性。(2) 障害児の権利の国際的保障。障害児保護の法理論、保護の現状と課題。(3) 共有経済。共有社会（地球上の有限物資やサービスなどの資源を複数の人々が共同で利用する社会）における経済活動の仕組み、法的規制、および課題。(4) 人道援助と国際人道法。赤十字・赤新月社の働き、性差と人道支援、軍隊の任務、国際刑事裁判所の働き（被害者利益のための信託基金を中心に）、武力紛争時の人道的ニーズと対応。(5) クラウドファンディングの法的性質。(6) スペイン王国カ

タルーニャ自治州の独立を問う住民投票を実施したジュンケラス前同自治州副首相に禁錮刑13年（反逆罪）、および同自治州前閣僚ら8名に禁錮刑を言い渡したスペイン最高裁2019年10月14日判決。(7) 企業財産に関する新たな基本理論。(8) 市町村による象徴的宣言の法的性質。(9) スペイン王国における大学教授の選任方法。大学教授の国家資格（大学教授免許制度）や採用人事のあり方。(10) 法と遺伝学。遺伝子治療、遺伝カウンセリング、着床前・出生前の遺伝子診断、胚の選択（望まない胚の



バレンシア大学法学部



7階まで吹き抜けの図書館



街路樹はバレンシアオレンジ

除去）、疾病遺伝子検査等の普及と関連法の整備。(11) バレンシア州における官民汚職と申立人の保護。(12) 人工知能とビッグデータをめぐる現代的問題。行政・民間・個人による人工知能の活用、ビックデータの国際取引、データの管理方法、および法的問題。(13) ポピュリズム時代の目に見えない戦争。(14) ドイツの気候保護政策。憲法上の枠組みと法的手段、原子力発電所の放棄と火力発電所の2038年までの段階的廃止、新エネルギー（太陽光・風力）発電への移行のための法的手段の調整、福島原発事故の教訓等。(15) 人工知能と市民責任。人工知能ビジネスに関する法律問題と損害賠償請求事件、などです。

これらの研究会等では、多くの学生・教職員・地域住民が時を忘れて議論に没頭し、理論と

実践のトレーニングが積み重ねられています。毎回、終了予定時刻はあってないようなもので、たとえば右の(12)の研究会は、議論が9時間にも及びました。バレンシア大学法学部を舞台とする、こうした熱心な学びの実際を経験できたことは、今回の在外研修において何にも代えがたい貴重な収穫となりました。

当初私は、バレンシア大学法学部で6か月間、米国コロラド大学ロースクールで6か月間の、合計1年間の在外研修を予定しておりましたが、令和2年1月にスペインでも新型コロナウイルス陽性者が確認され、バレンシア大学が閉鎖されるとともに、米国も入国制限を開始したことから、志半ばにして帰国の途に就きました。いつの日か、両大学で研修を再開できますことを願っております。

# 研究室訪問



## 加藤 祐介

### 学問との出会い

歴史学（日本近現代史）を専攻しています。「歴史研究をしています」というと、ちょっと浮世離れしたイメージを持たれるかもしれません。実際、歴史学の界限には、現在起こっている出来事よりも、とにかく過去に触れることが好きで好きでしょうがないと方もいらっしゃいます。もちろん、歴史研究に向かう姿勢や動機は人それぞれなので、それはそれで尊重されるべきだと思います。

ただ、私の場合は、むしろ現在起きている社会問題への関心が非常に強いタイプの学生でした。私の母校では学部三年次より演習（ゼミナール）に所属するのですが、そこで私は悩んだ末に政治学の演習に入りました。私が学部生として在学していた2000年代後半は、例えば「派遣切り」という言葉が流行したように、貧困と格差社会の問題が深刻な社会問題として認知されており、そうした問題を政治学の視座から検討してみたいと思ったのが最大の動機でした。

私が入った演習はハードで知られる演習で、演習がある木曜日は4時間程度議論に明け暮れ、それ以外の曜日はひたすら演習の準備をする…という日々が始まりました。それこそ、日

### 学生時代を振り返って

本政治史研究や貧困研究のテキストを貰るようになみました。そこでは本当に密度の濃い時間が流れていきました。私にとって、この経験がなかつたら大学院に進学しようとは思わなかつたでしょう。この時のノートは今でも私の宝物です。

### 政治学から歴史学へ

私が所属した政治学の演習は、計量分析や理論よりも歴史的なアプローチを重視する演習でした。演習に参加するなかで、現在の出来事を歴史的に位置づけることの重要性を自然に学ぶことが出来たと思っています。

学部四年次になり、卒業論文を書く段階になって、昭和恐慌期の経済政策と社会政策をテーマに選びました。現代の日本の国家のあり方を考える上で日本近代史の検討は欠かせないと思ったのもテーマ選択の理由の一つですが、人びとの生存が脅かされる時代における統治のあり方とはどのようなものだろうか、という問題に关心を持ったことが大きな理由です。今考えると、現状への関心をストレートに歴史に投影し過ぎていて、あまりにも安易な課題選択だと言わざるを得ないのですが、当時の私は真剣そのものでした。

ただ、実際に研究らしきことを始めてみると、過去の史料を集めて読み込み、そこから何が言えるのかを考えるという手法は、自分の性格にとても合っていることに気づきました。この辺りから、専攻が日本近現代史へと移っていましたのだと思います。

### 近代天皇制の研究へ

卒業論文において昭和恐慌期の経済政策と社会政策を検討した後、修士論文でも同様のテーマを発展させた論文を書きました。そこまではよかったです、その後研究に行き詰まりを感じるようになりました。1920年代の政党政治や経済政策は日本近現代史研究でも特に

蓄積が分厚いところで、研究の独自性を出すことが出来ず、苦しむ日々が続きました。

そこで博士後期課程二年次の時に、貧困と格差社会への関心という自分の原点に回帰してみようと思い立ちました。それを歴史学的に論じるに際して何かいい事例はないかとサーベイをしたのですが、そのなかで北海道上川郡神楽村（現在の旭川市、東神楽町）に所在する御料地（皇室所有の土地）で発生した争議がたまたま目に留まりました。貧困に陥った開拓農民が天皇権威に依拠して自身の待遇改善を主張するのですが、彼ら・彼らも一枚岩ではなく、やがてお互いに疑心暗鬼になり、相互に排撃し合うなかで運動の求心力が失われていく…というアリ地獄のような争議です。そこから浮かび上がってくる近代天皇制の下における人びとの心性のあり方は、研究に行き詰っていた私にとって、とても新鮮なものでした。この争議事例に取り組んだことをきっかけとして、近代皇室の財政や財産という視角から、日本近代の国家のあり様を考えるというテーマがどんどんと浮かんできたのです。幸運にも史料に恵まれ、なんとか博士論文を仕上げることができ、今に至ります。

### さいごに

こうして自分の辿った道を振り返ると、いくつもの偶然や縁に支えられ、時に翻弄されてきたこと、また歴史を描く自分の身体そのものが歴史によって拘束された存在であることに気づかざるを得ません。念のため補足をしておくと、私は自分自身のことを主体性のない人間だとは決して思っていません。ただ、「自己決定」や、その裏返しとしての「自己責任」が過剰に強調される現代において、それらを敢えて批判的に捉えてみることも重要なことだと思い、こんなことを書いた次第です。



## 空間から場所へ、そしてまた空間へ

# 高橋美野梨

### 空間から場所へ

成田発コペンハーゲン行き、スカンジナビア航空、8歳の私。上空から見下ろす無機質なツンドラのユーラシアは、幼心に、生まれ育った土地を離れ、まだ見ぬ異国に向かっていることを感じさせました。デンマークには、複数年滞在することになりました。到着した日は心細さもありましたが、地元のスーパーでの買い物がルーティーンになり、現地校で友達ができ、町のサッカークラブでの活動が日常化していくと、自前のレンズで、手持ちの言葉を通じて、等身大のデンマークの輪郭が少しづつ描けるようになっていきました。客体化した均質な「空間 (space)」から、特定の経済、政治、文化、歴史と紐づき、においを感じる「場所 (place)」へとデンマークが変換されていく、そのプロセスの始まりでした。

### 地域研究者として

私は、幼い頃に出会ったデンマークに関心を持ち続け、大学院に入って、自治領グリーンランドを含むデンマーク国家全体へとウイングを

広げながら、研究を進めてきました。国際関係学や国際政治経済学の研究室にいましたが、私の方法論的立場は一貫して地域研究でした。そのホリスティックなところ——①ディシプリンの集合体としての性格と、②自らの立場の移ろいに寛容になれるところに居心地の良さを感じて、そうした立場を積極的に打ち出しながら、「右か左か」といった、これまで普遍的・一般的と認識してきた構図を異化し、その上に何が立てられるかを考えました。

今年(2021年)、90年以上の歴史を持つデンマークの主要な社会科学系ジャーナル『経済と政治 (Økonomi & Politik)』に、私が筆頭著者となった論文が掲載されたことは、一つの画期でした。デンマーク国家の政治文化を切り口に、議会議事録等の一次資料と、現地調査で得た知見を動員しつつ、在グリーンランド米軍基地をめぐる政治の解法を探求しようとする内容でした。それまでの基地政治研究は、戦略論や同盟論に紐づく力や脅威に焦点をあてる分析が主流でした。私の研究は、それだけで議論が方向付けられるわけでないことを、基地の受入国・地域の政治風土や慣習に焦点をあてて再検討することを目指したものでした。安全保障領域における決定の相違において、宗教や民主主義的価値観が果たす役割を積極的に評価するヘンマーとカツツエンスタイン(2002)の論文が発表されて以降、そうした非物質的な要素への注目は高まっていました。しかし、事例の積み上げは十分ではなかったのです。

デンマーク人を読者とするデンマーク語のジャーナルに、デンマークをテーマにした拙論が掲載されたことに、地域研究者として、日本語や英語での成果とは異なる達成感を感じました。特に、マイナーな地域を扱う私の場合、地域研究者であることの表明は、ややもすると誰にも通じない言葉で、伝わらない知識を生産していると解されることもありました。この意味でも、学界全体での自分の現在地を定位していく、またとない機会となりました。

### 日本への視線

最近は、沖縄にある米軍基地をめぐる政治や、クジラ・捕鯨を介した日本の水産資源外交、あるいはアイヌをはじめとする先住民族の存在と不在、さらには近代科学と在来の世界観との交流の位相といった、日本で生起する具体的な事例と引照させながら、政策提言的なアウトカムにも携わる機会を頂くようになりました。日本だけを見ていると手詰まりになってしまうことでも(基地問題や捕鯨等の水産資源外交はまさに「それ」ですね)、意識的にそこから距離をとってみることで、逆に日本の足元を照射していくことができるかもしれません。こうした思いは、教育に携わる際にも意識的であろうと思っています。

### 場所から空間へ

少し堅いことを書いてしまいましたが、今改めて振り返りながら思えば、私自身が等身大の気持ちで寄り添えるテーマであるかどうかが、全ての決断と行動の根幹にあるような気がしています。その気持ちを自分だけに留めず、まずは目の前の相手と共有できる言葉に翻訳してみる。冒頭の表現を用いれば、特定の社会文化的な文脈と密接に係わり、その固有性を強調する「場所的 (placial)」で私的なデンマークを、関係的/通文化的な観点から捉え直してみる、すなわち他の国や地域との接続可能性や共奏可能性を高めていく「空間的 (spacial)」なデンマークに置き換えてみる、といったイメージで説明できるかもしれません。空間から場所へ、そしてまた空間へと、私のデンマークへの研究・教育上の関与と距離は、場所への愛着を基点に、それを空間化する——他者に開かれた形で表現することを通じて整序されているような気がしています。



かわしま ひさし  
**川島 壽さん**  
(学校法人北海学園経理課)

—本日ご紹介するのは、法人経理課にお勤めの川島さんです。よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。

—現在はどのようなお仕事をされておりますか? また、昨今のコロナの影響はいかほどでしょう?

経理課なので、予算と決算等お金に関する仕事全般に携わる(というと少し言い過ぎかもしれません)仕事をしています。法人には大学と高校二つずつありますが、全部一箇所に集めて、決算まで持っていく感じですね。去年はコロナの関係で、予算にない支出も増えましたがその反面、緊急事態宣言等でできなくなったりとも多々あり、その分の支出は減りました。学生の皆さんはもちろん、先生方やこれから受験を希望する皆さん、その保護者の方々、影響があった人はかなり多いと思います。

—今はコロナ禍でいろいろ支出も増えますよね…。さて、学生時代に力を入れていたことは何でしょうか?

学生自治会の活動をしてました。今でも多分やってると思うんですけど、4月や5月の頭に新入生歓迎パーティーとか、サークルのPR大会とかありますね。ああいうことのセッティングをしてました。学祭とは別に、芸能人を呼んでトークライブみたいなものやってましたね。もう20年前ですが、大泉洋さんとか、安田顕さんにも来ていただきました。

ゼミは鈴木光先生のゼミにいました。ゼミ合宿もあったんですけど僕は都合が合わなくて参

加できなくて。スポーツは結構ガチの人が多かったので、ソフトボール大会には積極的に参加していました。ひとつ思い出したんですが、ゼミの前に外を歩いていると先生とすれ違いになって、どこ行くんですかって聞いたら、これからハンバーガー買いに行ってみんなで食べようかって(笑)。そういうことは結構ありましたね。

—充実した学生生活だったようですね。それではここで、後輩へのメッセージをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

うん、今はやっぱりかわいそうですが、何かいろいろまいこと見つけて楽しんでほしいですね。僕はアウトドアが好きでして、もちろん感染対策をした上で、近場のキャンプ場に行くことがあります。緊急事態宣言は開けますが、感染者数が減るまではもう少し辛抱して、でもその中で楽しみを見つけてましょう、というところでしょうかね。

—とても面白いお話を聞くことができました。ありがとうございました!

《次号に続く》  
(構成:岡本直貴)

## 2022年度 法学部各種入試一覧

### 特別選抜(社会人II期)

#### II期(口頭試問・小論文)

募集人員: 2部法学部

口頭試問 15名 小論文 10名

出願期間: 2022年2月12日(土)から

[郵送]2月19日(土) 消印有効

[窓口]2月21日(月) 午後4時締切

試験日: 2022年2月26日(土)

\* 法学部1年次からの入学は、学部単位で募集します。所属学科(法律・政治)は入学後1年次末に選択します。

### 法学部編入学試験 (3年・2年次編入)

募集人員:

[3年次] 1部法律学科 推薦を含め20名

1部政治学科 推薦を含め10名

2部 若干名

[2年次] 1部・2部 若干名

出願期間: 2022年1月11日(火)~1月18日(火)

試験日: 2022年2月18日(金)

### 出願資格、必要書類などについてのお問合せ先

[社会人特別入試] 入試部 電話 011-841-1161

[それ以外の入試] 法学部事務室 電話 011-841-1161 (内線2228) FAX 011-824-2229